

英のガスケルの夫人の作、一八五三年出版。克蘭ツフホードの村の婦人連の古風な思想、質朴な生活、一種の交際振りな、厭味がある可笑しく目に見ゆるやうに書いてあります。

Cranford

英のヒューズ作、一八五六年出版。トムブナウソンといふ少年のクビーといふ學校に入學して有名のアールド校長の感化を受ける學校生活の話。英國少年氣質を知るに良き書です。

Tom Brown's School Days

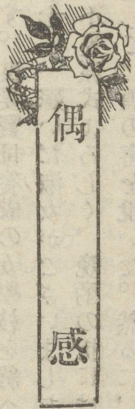
Twelve Humorous Readings from Mark Twain

有名の米國の滑稽家マークトウェイン(本名クレメン)の書いた可笑しく興ある話を十二題寄せたるもの(三省堂發行)

The Adventures of Gerard

現代の英の小説家で且醫師のゴナドニイルといふ人の作。筋はナポレオンの部下の一將が奈翁の配下で歐洲の諸方面に戦つたその折の経験談をすることになつてゐるの折で目覚ましく面白い部分が澤山あります。一九〇三年出版。

此等の本も大概價五十錢で中西屋もしくは丸善で賣捌いてゐます。之等以外の小説其他脚本、論文、詩文類は他日折を見て更に御紹介致すことにします。



◎偶感 清水俊尾

先日千葉様から何か書くやうにと仰つて下さいましたのでちと考てみようと思つて存じました。夏頃から病人が御座いますので夜書手がごられて隙が御座いませんでした。今更お断りいたしますのも御無禮で御座いますから申わけまでに

或日本人が英國の王宮を拜觀して、玉座の前に立ちました。塵のついた靴で入るさへ恐れ多いのに、案内者の英國人があけて御覽なさい、と申しました。日本人は、ひたあきれにあきれ、つぶくの眼で、相手を見入りますと、案内者も、げげんな顔をして、英國製ですから、大丈夫ですと申しました。日本人が、玉座の前で、ためらつてゐるのを、單に椅子の破損を恐れたと、解釋したからで、日本人の此瞬間の心持を案内者がちつとも察し得なかつた。こゝに日本語を話し得ぬ西洋人が、一人家にとりのこ

農の弱味は女の弱味である。
女の強味は農の強味である。
蹂躪される様で實は塔載し、常に負
るやうで永久に勝つて行く大いなる
土の性を彼等は共に具へて居る。

—(み、すのたはここ)—

されて、夕飯の準備を、コックにさせようと思つたが、ポテトの皮をおどりなさい、といふ言葉が、どうしても出なかつたので、少し考へて「おいもの皮を、さやうならして下さい」と申しますと、コックは、望み通りの料理をしてくれました。また西洋人が日本に聘せられて、教鞭をとることになり、披露のため、客を招待いたしました。彼等は、入口に立つて、客を待ち受け、其姓名を尋ねるのが禮であつたから、一人の學生さんに、フーアルユーは、日本語で何といひますと、聞きました。氣早な彼は聞きそこねて、フールアルユーの譯を與へました。其當日、彼等夫婦は、玄關に立ち、來る客毎に「あなた馬鹿ですか」と聞いたので、客人は、返答に窮しました。其當時、有名な失敗談として數へられたさうで御座います。先頃から、日本

社會に、新しい女といふものが、一段の氣焰を吐いて、女優が衆目を、引きつけて参りました。彼等は、所謂、彼等の自信と、主義と、を宣言してたつて、舊來の道德に逆らひ、習慣を嘲罵して、西洋の空氣を十二分に吸ひ込んで居ると稱へてゐます。新らしいものは、人目につきやすく、人好きのするもので御座いますから、青年の婦女は、いつしか好奇心をもつて、其香をかぎつけ、次第にそまゐりますのに、世の父母たちや、先生達が、徒らに、東洋の儒佛の思想を、虎の巻としてゐては、意識の範圍が、全く別になつて、最も親しい親子師弟の間柄に、意志の疏通が、絶縁されて、お互の同情が、冷え切つて、教育は、只皮相に終つてしまひさうでございませう。若し、彼等が、誤つてゐても、導くことが出来ません。フルアルユー以上の失敗が出来ません。良妻賢母養成の女學校を終へて、さる法學士に、嫁いだ淑女がございました。立居振舞は、小笠原式よろしく、晩酌の折には、夫の顔色を侵して、酒の害を説いた。然るに、

彼女の肺肝を絞つた忠言は、終日の勤勞につかれて、一酔の酒に蕩然としようとしてゐる、夫に冷笑と、不快と、陳腐のたはとを以て、迎へられ、且折角の小笠原式作法も、虚偽の權化と印象されて、つひに、破鏡の悲しみを見ました。今一人信仰厚い婦人が、神様に全身をさげ、己を卑くして、他人の意を迎へます如何にも、理想に近い賢婦人で御座いますのに、お話をしてみても、愉快を感じるものは、少う御座いました。もう社會の要求は東洋流に、固着してゐることをもつて、満足しないやうになり、思想が通じてゐれば、おいもの皮さやうならでも、よく了解が、出来ます。微の生えさうな、古い思想にばかりとらはれてゐては、青年を導く資格はございませぬ。危険でも、嫌でも學校の先生は、西洋思想の傾向に通曉して、確たる意見をやるやうに、讀書もしなければならぬ。切に思ひました。筆を措けば、これも、また陳腐なことはと、存じましたが、今日なほ女學校の先生で、西洋史の樞軸になつてゐる

キリスト教を、一滴も味はないで、毛嫌をし盛りに流入してゐるイブセンや、チエホフ等の著作を、見向くものとも思はないお方が、數多いやうに思ひましたから、聊か、皆さんにお訴へ申します。紙面を汚して、失禮いたしました。

秋が來た

文科三年生 ふたば

秋が來た。正宗の焼刃の快い匂ひと、こまやかに立ち上る香の煙のなつかしさをもつて秋が來た。朝々肌に緊張した氣分を與へ、宵々の灯はサラ／＼とかへす頁に美しく輝く。圖書室の前に立つて新刊書の目次を閲するも、古い漢書の樟腦の香をかぐもふさはしい時である。一夜、人少い圖書室の大テーブルに明るい灯を一杯にうけて古典的な物語により耽れば、ひいやりした夜風が、コソソリ來て神秘の扉を叩く、窓から入り來る夜の景色、ニコライの塔は「眠れる城」の様におぼ／＼と霞み、紅梅町に覺めたる町の様に青い灯、赤い灯が花やかに、バット火花をきらめかせては電車がゆく。再び私は現實

から逃げて平安朝のやわらかな空氣に浸るとゆたかな尺八が響いて來る。やがて私はやるせない心細さと悲しみを抱いて底ひもしれぬ黑暗中裏に一人立つて居た。私の睫はいつかうるほつて居た。

息たゆる前の安けさ、それにも似たる夜の静けさよ。尺八の音は絶えた。その名残の振動が大きく私を包んでゐる様な氣がする。そして私の身体全体が靜かにそれに共鳴してゐる様な感がある。やがて大なる沈黙が天地を領して了つた。

星明かな夜、私は一人くづされたる校舎のあとに立つて居た。本郷の空の末は、ほんのりと明るく都の夜は流石に艶めかしい。うつつりとして私は初めて上京した夜の事を考へた。其頃はたゞ希望が達せられたといふ喜びの外何もなかつた。故郷戀しと泣く涙は實に清かつた、甘かつた。自己の不安定な心細さ、矛盾の苦しきなどといふものは我世の外のものとも少くも當時は思つて居た。私共のゆくべき道は希望の光に照され